

# 古言抄掌子

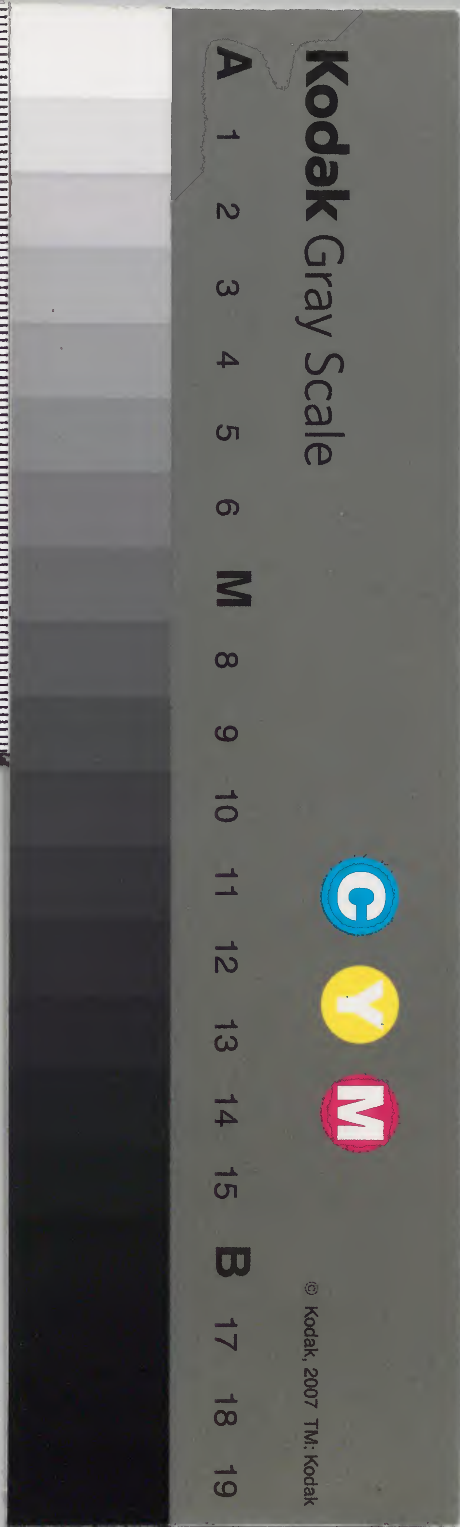
249

書	庫	文	閣	内
二	二	五	〇	九
七	三	〇	九	和
函	一	三	〇	九
冊	三	一	二	書
	架	冊	號	類

共

				和
			二	書
			五	門
			〇	
			九	
			九	
三	九	六	二	
一	七	六	二	
冊	架	函	號	類

内閣文庫	
番號	和 25092
冊數	31 ( 1 )
函號	207 249



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



雲

二口言榜掌故卷之二

あ部

あ

應神紀右アカコ口 仁徳紀上 古事記上四

アカコアワ同 景行記アレ口 五十九左アレ

モフ同右アカコ同 廿六右アガ又之同 廿九左アカコ

十九右安字忘スナ 同廿五右吾駒 十四ノ十九左セ

廿八左余アレ畧 十五四同五右一カモハナクニ 十八十六

右一が身ナリ 廿廿二右我欲恋為將 アラカコヒスナム

△如是甚多し 古語

口トフ 頁々通メ用ス

あ

神武紀

日四イモハ



ヨク阿々時夜鳩ハ私記曰阿々者咲声時夜鳩  
者猶言字加志今按此卷最初ノ歌ノ終ノ後ニ  
古事記ハ思宜々引音志夜胡志此者伊能基布曾  
此五字以音阿々引音志夜胡志此者嘲咲者也ト有之  
ニ鳩ト胡ト通スルハ同シ詞也 三ヤト云詞今モ  
俗ニ云ニ音通セリ往古遠ナシトモ尚遺言感心  
あゝん 十六正石佛造真朱不足ハ亦真朱實  
岳ハ和名欽云考聲切韻云丹欲丹音都寒反和  
名似糸破而不鮮明者也又云本草云糸砂最上  
者謂之光明砂。後漢東夷列傳倭在韓東

南大海中云云其山有丹 韻會云託文丹巴越  
云赤石也象采丹井象丹形一徐曰得丹它而富  
穴昂井也。本草云丹砂也陶弘景云越砂出廣  
別臨漳光明瑩徹。○圖經云今出辰列宣別  
階列辰最勝謂之辰砂。禹貢礪砥如丹。○  
字彙朱色赤色託文赤心木松柏屬 樂書云  
木為物含陽於内南方之火所自藏也今借為  
丹朱之朱。○徐平割也赤キ土也丹砂也真朱  
ト書タル  
ハ朱砂ニテ  
あが 五ノ右廿六右 四ノ右廿九石  
八十一十八廿六十一廿十二世右



△吾

あふ

十七九右廿六右  
不飽也こらふ云同

あふ

比河

五廿九右明星之間朝 △和名欽  
云兼名苑云歳星一名明星比間

云  
保之

詩鄭風

日子與視夜明星有爛

尔雅云

明星謂之启明

註云大白星也晨見東方為后明

皆見西方為太白

了カホレトハ此星出則夜明

故名乎。六怡星月影尔張尔梟明星乃不飽

心耳出而

海志史

あふ

十五十三右十六右廿右  
十八十七右廿三右  
廿六

△ハツニ通ス 十一四十三右

旭時。八廿七 五更

あふ

廿四 左

あふ

神代卷下古五  
▲赤珠  
之光也古事記ハ一 波

袁依因比迦礼行コシ

珊瑚ナレハニ但シ赤キ玉成シ

あふ

七廿八右淡加  
縣ノ物語為

△縣 郡一判ト連ス神武紀ニコホリト判此淡

海ハ參河國碧海 美 郡ニヤカナ違フトイ(十五

思フ故アリ

思舎ノ物語也

あふ

應神記古河柳  
例蘆嶋尋吟



△所熟娘子ナリ 十九ノ四十三當集アカル夕子ハナナ等  
アリ皇極紀熟稻 息セリト、ノホレル義又熟レハ  
赤クナルヲ以テ紅顔ニモヨクサセ給ヘルナリ此御  
歌モ髪長媛ヲ全ク橋ニ喻テヨクシタマヘリ

可憐之月

十五左五曉月ニ白ク旭時 アカツキ  
アカトキ

十五右可旭

あつとそそ

十五九右暮月  
夜曉闇夜

十八右夕月  
夜五更闇

あつとゆ

二十三右鶏鳴露八ノ  
四十七左十九甲四右四十七右

あつと

十七七左白携衣垢附テテニ十五  
十五右イモカコロモノアカツクニシハ

十五五イヘイイモカ  
キセ之夜ニカツキニケリ

あつと

十五八右苗  
刺日ハ十五

右赤根刺目之十三七 六十五左 〇統日本紀十九  
苗刺志天照國乃日宮 〇亦一須絡日 須加  
良ル 〇十三

十四左赤根刺晝ハ廿ノ四十八右同カ四ノ廿六左赤  
根指ニ照有月夜ニ十三ノ二右ニニ所光月夜ニ

あつと

十六ノ廿四右一君〇ア十三左  
苗草指ムラサキ野ニ日光







あしひ

十廿五左朱羅引色妙子△十ノ  
五左朱引朝行ムヲ待ハ苦△同

六右一

奏不経

あもよ

一ノ廿左未通女等  
ハ赤裳スソ引。

五ノ九右短九ノ九左短一十七ノ廿七上ノ十八右

一去ノ儀ヲ十五ノ九右短〇七ノ五左一ノスソ

将深

あしち

十六ノ廿五左赤羅山船  
北ノ糸△アカラヒタ

ハ次ニ出セル赤裳スソ引ナリ一ノ山船己ニ出セル  
アカラ引目ト云ニヒトシク赤キ船アケノソ赤毎サ

ニヌリノ毎ナド曰ルニ同シ

果紀才苗之十九暁トヨク

あし

古事  
神心  
紀波

肌皮陥阿可良氣△ハタハ土バタニラ上ツナリ

肌ヲカハト云ハ皮邊ノ意ナリ檜皮ナト云リ

アカラケハ全ク赤キニハアラヌナリナてく

ニノ白ヲシラケトイフカ如シ

あふ

ナテ甲右贈命ハ妹カ為社ナ七ノ五ナ  
フトリトイヒハスハ定賀布伊能知毛

タガタメニナレ△六月ノ夜ナトニ天子ヨリハシメテ

御贖物トテ出セ給フ物アリ身罪アハ神皇ヲ



ヲイタシテ神ノ心ニセシ  
コノ命ヲクツクチキ

和名欽唐額云  
音征漢語故云  
馬ハ馬赤色

セタニフユエニ命ニモサハリアリ罪ヲ謝セニタメニ

身ノカハリニ物ヲ出スカ贖物ナリ玉篇云贖市

燭及又市注切質也以此

贖罪也 虞書金作贖刑 **あつこま** 赤駒

五ノ九左河迦胡麻七ノ十二右赤駒十ノ十四右赤駒

十四ノ二十一右安可故麻 我馬欽 オホキハ  
コレカ

**あがま** 七ノ十五右赤駒之足強ク速 七ノ十八右赤駒

ノ足何久濃 十ノ十四右赤駒足我キ速

ハ十四ノ十九右カ 十七ノ十九右カノアカ馬ノアカキ

ノミツニキスレニケリノ足ニテ強ナリ鳥ノ水ヲカサ

モ前ヘカキテ左右ヘヤリテ深ニ居レハアカキモ

前ヘ物カクヤウニスルナリ足ドリ也六帖ニタタフ

川カハセラハヤミ赤駒ノ足ノ

ソノキニヌレニケルカナ 此々キト同物

**あつこま**

廿ノ五十二右カリサハヌアカキコノロヲスメラズニキハ

ツカシテツカヘクル十五ノ十二左アガコノアカシノウラ

十六ノ廿四右アカ子サス君カ情 日本紀ニ赤心丹心

黒心共ニ出ツ 文選既元瑜為曹公作書与孫

權曰若能内取子布外擊劉備以效赤心用

復前好別江表之任長以相付 丘希範与陳伯



之書曰雅志心於天下安及側於萬物 長流  
カ明ナル心ト云ヘルヤトニ黒心ヲキタナキコトヨ  
メルニ對シテオモハハ赤心ニヤアカキ物ハキヨリ見  
コク口キモノハキクナクモユルコトノオモケレハカリ  
モカケルナルヘシ倍ハイサギヨクアキラカナレバナリ  
拾遺 參儀伊衡 白物ノ志乃き月々も之れをのめ  
多をともなる  
ありとふるん  
あし  
令明而

あきハチヤ  
六世九左  
九世三左  
あき  
神功皇后  
紀古伊安

阿藝 應神紀同 藝ト誤通シテ吾子ノ意  
欲 古事紀ニハ伊邪古梯母トアルニ知ヘシ又同  
紀 改佐邪岐阿藝之言如我所思云云 〇張  
景陽雜詩云金風善曰西方為秋而主金故  
秋風曰  
一也  
あき  
十世九  
あき  
をのまのともあり  
九世左 秋女子ヲ毒問庶カ  
ソ同世四右 詠鳴庶歌秋  
子之毒卷トト呼之鳴 八世六左 先芽之花孺  
向ニ來鳴棹壯庶口アキハキノツト云ル〇アキハ



キノ恋ノミヤ▲十ノ廿六左▲秋ハキニウラフシ居  
レハ口萩原ニ座ノ来ムツルレハ萩ヲモモトイヘリ  
トモニ愛シテ折節モアイニ  
アハハ座ノツニニスラヘテイヘリ  
十六ノ十五高変領為  
トノ御法  
あさくらり  
ナラ右秋  
柏園ヤ川へ

○日ニケニフキ又十ノ廿六左

甲子石四十六右十五十八左亥今

あさくらせの吹  
八廿三十四廿二ロ十ノ廿五左ハヤクシ  
吹来古今アラタノミコソカナシケル

あさまもろ

十ノ廿四右秋トイフ字  
ヲ時ノ音ノ和割ト

トレクヨムコトノハキノサカリニサクヘキ頃カ秋  
マチカクシトイヘハ時マチカクシノ心ナリ亥今集  
ニ秋ハキ又モミナハヤトニフリリ  
キ又道フコケテ岡ア人トナレ  
あまみさ

七九左渡ルアキサノ律將居其河ノ瀬浪立  
十五メ▲鳧ノルイナルヘ見午云俗アイサキイサ  
イ鳥ナルヘシ  
廿六ノ三行モ也  
あまみの老み  
ナ



右六テ四ナ左

一ノニタヘハ妹

あきさきめ

十八ノ左一タヘシ  
アキラメテ廿五十九

ノ廿右廿九左文選

目察世ノ五十一アキラキ

あきさきめ

十ノ右  
△讀古テ

旅ニシテ初サリ衣サムケキニ

イタクナ吹ワ武庫ノ浦凡

あきさきめ

巾ノ糸下十三三左

十四十二秋己エラニ

あきさきめ

七ノ廿五右西市  
ニ但獨出テ

眼不並買シ絹ノ高自許軍カモ△アキハ如字  
アキナフナリニコリハニキリナリ百下箒下音通セリ

飽マテ十ノ廿六右飽足ニ十ノ廿四左飽不足 十ノ廿

七厥雖不足 同廿六左末厥 十九十五將飽足

あきさきめ

十廿七右明者雖明十一  
四十三右明者雖明也十一

十三明者

將聞

あきさきめ

十三十七左水  
多之上ニ種薛

△神代卷下云又教曰元作高田者汝可作高田

玉篇云北 徒訓切高田今ノ 畠田ト云百ノ 文選東廣徽補大詩云

無高石橋

無下不極

あきさきめ

三千九右赤ノ  
フ赤船丁三三



右同十六廿五石赤う小船 八廿三右サ塗ノ小船  
 九廿八右校丹塗ノ小船 十三廿五左十六廿五黄漆ノ屋  
 形神雨渡△如字オ十六ノ後ノ奇ハソメヤカタライ  
 △ヤウナレト舟ハソメイロトルモノニヤ先年高麗人ノ船  
 フ見ルニ材ハ丈夫ニテイカニ元相煎ニアラクシク作  
 リタレドモ丹土色ニ染タリ其ヨシアルニヤ○統祿諧  
 記曰忽見一人自稱三閩太守  
 以五色絲轉之此物斂龍所悼

あけてもまのこ

見<sup>十六ノ</sup>ハ<sup>十六ノ</sup>あけ<sup>十六ノ</sup>了<sup>十六ノ</sup>服<sup>十六ノ</sup>  
十六廿六左機也同廿七  
 二十百織ラシハタラ云云

あけぬき<sup>十六ノ</sup>  
朝スル朝采也  
 十四廿七右 あぢ<sup>十六ノ</sup>

クワレクハアサケノ糸<sup>十六ノ</sup>  
七ノ十三左朝采△あさけニ同  
 十九ノ あぢ<sup>十六ノ</sup>ハアサ

夕ハ八ノ廿五アサケハ六ノ廿一石<sup>十六ノ</sup>  
十ノ十八右十廿五左十七廿三右十九廿五右 あぢ<sup>十六ノ</sup>ハアサ

四十六右明晚ノ且霧隠 十廿七左明闇ノ朝霧隠  
 △夜ノ明ハテシトテカハリテクラフナル時ライノ時、爽ト云  
 云此時ナルベシ或書欲明而未明之時トイリロク

文字濁テヨムハ中ナリ 詩鄭云云如日鷄鳴吉日昧且







鳥汝夕ニ未鳴ケ朝戸将開ク朝戸ノヤリヲ早ク  
ナアケリナノ十八右△朝ハ戸今開レハカリツケリ

あさころも <sup>十一ノ</sup> <sub>世四</sub> あさとし <sup>十九ノ</sup> <sub>世三</sub> 左朝床  
余聞ハ遙シ

十八世三左夜床

△朝宿ノ床也

あさあ <sup>廿</sup> <sub>世三</sub> あさ <sup>廿</sup> <sub>世三</sub>

り <sup>三ノ</sup> <sub>世七</sub> 右朝ル食ル△ルト奈ト通アサナケ  
ニトイフ詞ニテ朝夕ト云コ、ロナリ

あさよし <sup>十八ノ</sup> <sub>世六</sub> 右多虫  
あさとし <sup>十九ノ</sup> <sub>世五</sub> 右五子四左

テ世三右朝鳥ノカヨヒニ君

三ノ六十右ノ子ノミナキツク

あさ <sup>九</sup> <sub>世九</sub> 右  
朝立

為ツ

あさ <sup>七</sup> <sub>世九</sub> 左八ノ世三十三ノ八  
同世右十七ノ世四左廿十八

あさ <sup>十九</sup> <sub>世十三</sub> 夕  
あさ <sup>十三</sup> <sub>世五</sub> 左  
ヘカハラヒ

朝庭舟出居テ世右同十七ノ世右一イデ夕十  
ラシカ一ノ七左朝庭取換賜三ノ六十右同出立俣

あさ <sup>十一</sup> <sub>世八</sub> 七  
あさ <sup>八</sup> <sub>世五</sub> 左朝面  
廿五夜ト







カチ五十八右曉月夜  
十九ノ十九右曉月ニト云  
ニ同上ニ出

夕チテト云ニテシルヘシ朝月夜ハ朝ニテ月ノテルナリ  
夕ツクヨハ霄夕夜也ト心得ベシ延喜式ノ説詞ニモ朝  
日ノ日ムカヒト云ルコトク朝日ハムカフニメテタキモノナ  
レハ向フトイハシト云朝ツク日トイリサテコソノゴトク  
向月トツドケ亦朝ツトコモモモ髪ユツトテ櫛ヲ取鏡  
ニムカフユエニツケクシトハイリム亦日月トカケルニ残月  
ノ日ニ向フト云カケタル歟オセモ  
同終夕附日ト書トハ夕カヘル歟  
アモ九左朝月夜九ノ五右一  
明ニリヲシム朝ニテ月ノ足也

あさつぐよ

あさつぐよ  
ハ四ノ六  
サヲシカ

野辺ノ  
あさつぐよ

仁徳記九阿佐豆磨所ノ  
名也私記云師説在難波之

地名也カリアレトモフツニ聞不レ及サモト思フ儀モ  
アレトカツテ不知近江田坂郡ニ且妻アリ亦天武  
記云九年九月癸酉朔辛巳幸于朝嬬於長柄  
杜古事記云葛城長江曾郡毗古云云延喜式葛  
上郡長柄神社コレニヨレハ  
朝嬬ハ葛上郡ニヤ猶可考

あさつぐよ  
十六廿二  
左

あさつぐよ

五ノ四十五ニテハ八ノ十右八ノ  
五ノ右夙夙十三十四十三右早々



△廿四十二斤アサナサナ澄  
四十六斤アサナサナ雲  
モ毎日居ナリ澄也

十一右朝七甲三左朝奥夕茶或旦々朝旦  
十二右七左朝旦是ハ一節ノニアラス毎日也

あさき次

三廿六甲六六四十五  
△己七毎日く也七甲右

あさ

あさき日入ゆあハ

テ廿左旦西復  
日之入出者

あさ

あさき

六廿二右朝菜様テム  
△十四十七右ハアラス

あさき

あさ

十一右朝井代ニ来鳴  
昆鳥△井スカ下

あさき

十一右

け、糸

朝参ノキニカスカタラ△今ニ井リト新参ノ人ヲ言

意ナリ十分廿左未為シワカセラ十六世右参納

来 **あさき** 七十三左朝岡ノナゴリハ廿六右

而 **あさき** あさき同 今朝ノ旦岡十九左旦明同廿左

不宿十分廿九右朝岡同四十三左寒一〇古事記

雄阿佐計尔波イヨリタニシ由布計尔波△是ハ朝

異者ナリ毎朝ノ意ナリ夕異者元同毎夕ノ意也

朝岡一明トコレバリ又朝食ヲアサケト云ニアラス

朝ハ同ニ朝ナシ一日ハ昨日

今日ト替レハ毎朝ヲ朝異ト云也

あさき



七ノ四十二左十四ノ十五左九ノ八右

十七ノ五ノ右十九ノ十五

あさあさあ

四ノ十六十三正

十五ノ十六

あさあさあ

麻ハノあさあさあ

十八右馬数テ一十九世七右

あさこえて

朝東風尔副テ六世四左朝東風尔

七ノ廿二左十二世五夜越

あさこえて

三ノ廿三コフコエ

シ志賜ヤ夕

宮ヲ皆賜ヤ

十三ノ四右

あさあさあ

七ノ廿五  
五ノ廿七

あさあさあ

景行記に阿佐  
志毛能 流概

能佐鳥摩志 一朝霜之 御水之狭小橋ナルベシ

ホヲケト云一ハ神代卷私記云古者謂水為水云

コト素戔嗚尊ノ御身ノモヲ抜散夕一ハルカ身ノ

所ニ依テサテクノホト成夕レハ毛ノ意也サテ霜ハ

ホニ置テソレト見ユルモノナレハ如此ツリルカ温庭

筠カ詩白人迹 板橋霜ト作レルモ同意ナルベシ



橋ハ半橋ニ

モアルベシ

あさひ

五ノ廿七右一ヶセスキ

十三ノ廿七ノ廿七九ノ廿二

十一ノ廿二ノ十八同世四ツユモ

ケ十ハケ又ヘリ四ノ三十五

あさひ

十三ノ五ノ十ノ  
十四ノ五ノ廿

あさひのほろ

十四右朝日影ニホヘル  
山ニ照月ノ▲源氏ニ曉

カケ三月出ル比ナレハトカケルヤウニ廿五ノ夜ノ後月

ハレルホトモナリアタルカ名コリオレキニナソヘテアカ

又君トハイヘリ言奇

鯨ナリ月ハ西山ニヤカテ

あさび

十三ノ左且  
田榜去シ

あ

十一ノ廿九

五ノ廿四

あさひ

十一ノ八左朝柏回

八河邊之山竹之

眼笑同土右秋柏潤和川邊ノ細竹目▲未詳

和名鉄云飛弾國益田郡秋芳阿佐比コレイカテ

故ハシラサレトアサカシハトヨミン澄ナリ其上六帖

袖中共ニアサトヨリノサテヌルヤトツクルヤウ共ニ

潤潤トカケレハ朝ノ柏ノ夜霧夕霧朝露ニヌル

心ニヤ此葉コノヤカナラズホソカラ子バヌルノコ

トニ見エル故云ニヤ或朝ニテモ秋ニテモ露多時

ナレハ共ニヌルヤウニ夕ヨリアリノサテ川邊ノモノト



ツ、ケニ

序ナリ

あさくさ

十六ノ十五右朝霞段テハ  
左秋ノ詩秋ニカスシヲ

引又辛ハ世四七夕

奇霞ノ双書

あさくの衣

十二ノ十四左桃  
花裾ノ浅等

乃衣△退紅ハ深江ニ

對メ浅ケシハ立へし

あさむら

五ノ四十五カ  
四ノ五十七右

所一詠

あさつ

十二ノ立右カ黒髪乃眞水綿持  
阿邪左階垂△アサハ水草也

毛詩云参差荇菜左右流之

和名集云尔雅注

云荇菜

工音杏字亦作  
若和名尚依々

叢生水中央圓在端長短

あさくさ

神功皇后記古五阿佐彌鳩齊

ハ不飽物鳩齊ハ飲ノ

字シヨメリサハハサノ下ニ注

あさくさ

五ノ  
廿九

左十四ノ廿三

麻草テ一ヨフシ

あさくさ

十三ノ廿八左五ノ廿九左  
喪衣ト云

あさくさ

四十八左庭ニ立麻キ刈于七ノ十八右麻蔭

ワキモ同四十一朝蔭ノ十四ノ十九右一コブ

スニカ十六ノ八日ニサラシ朝キ作ラヒシキモナセハ〇九ノ

世二左小垣内ノ麻ヲ引于△麻ノ葉ハ人ノ年ヲヒロケ



夕ルニ似タレハ麻子トイヘリ兒年柏カヘテナド  
似タル物ニ名ヲ得タリ嫩蔴人拳ニ年ト作ル己  
ラニ准スヘシ○庭土ハヨキ人ノ前サイナドメク所ニ  
モ麻ヲ植ヘ生スナリ亦カリテ庭ニ立ニテモアルハ  
此ハノ類ニハベシ。千載志三俊頼アサテホス東乙女ノカ  
ムシロシキシノロテモ過スコロ哉曾舟集六月中庭  
生ル麻子カ花ヲハヤモケム昔ノ人ヲ見子ト恋シキ  
此葉ニ似タルホアサヤツキト名ツケナリ

あ  
十五世右行悪カリケリ廿四右  
住アシトソ云十四ノ十八右ハヤカリ  
あ

アレラノミツ穂ノ國ニテ七右葦原ノ水穂ノ國九ノ  
世三左同十三右同十右同十八ノ廿右▲神代卷云  
天神謂伊弉諾尊伊弉册尊曰有豊葦原乎  
五百秋瑞穂之地古事記云豊葦原之千秋長  
五百秋長之水穂國又云豊葦原水穂  
國舊年記五云葦原瑞穂國  
あ

し  
多ケレハ名物トナレバナニハトツドケニハカリナリ古  
事記下十九五待戰射出之矢如葦葉散  
▲葦散難波也夕、十二ハ葦原



あしをさるる

土ノ世七左  
濤入ノ葦

別山舟障多し

十二ノ世七右同亦左

あしうつし

土ノ世八右大  
舟ニ葦荷刈

積こくニサセノ四十三右

ーカトアノヨフ子

あびた

土ノ世七左  
難波人

葦原の燎屋ノス、タレト世四十右ア、シタケトモス、ヨ

ケシ、葦ヲ薪トスル、亦六帖家トウシテ、思フ、ト、

ニケサシエ、ケリ出テ、コレ、葦

あし

四ノ世八左  
蘆鷄

火タク屋ノ、恋シカリケン

六ノ世二左、多頭、十一ノ四十右、葦多頭、多クヨメリ

葦原ニオリ、居ルモノナレバ也、才六白、鶴ト書ハモ、

葦ノ花毛馬ヲアレ

▲葦ハアレタツ

ケト云也、タクニニ云、然

ノタクニ也、十一ノ四

十七左、葦鴨ノス、ダレ、十七ノ世七左

あ

十六  
世左

葦河、ル、和名、欽云、兼名、苑云、螿、蜻

彭越ニ音、揚氏、漢  
語、坎云、葦原、蟹

形似、蟹、而、少、也

あ

グ、

六ノ世四左、難波國ハ、葦垣ノ、古、卿ト、九ノ世、四右  
一、思、乱、而、十一ノ、十五、右、同、十六、左、末、十七、世、右、ア



シカキノオカ世つ右同正ノ世四右行カモノ世六十二  
 世七▲アシハ細クシテ高キ物ニ生レタルモシタレ  
 垣ニツカ子シタル古ノ  
 シワササモシタルベシ  
 左行カリ  
 タツナキワタル  
 あねおの  
 七ノ  
 世左  
 あり  
 六ノ世五ノ世右  
 十三右四十三世四

申す  
 十四ノ十八  
 右五  
 あはら

さ  
 五ノ四ノ右三ヲドリ  
 足復利サケビ  
 あ  
 九ノ十九右三  
 走叫袖振

及側足スリニツクタテて子ニ情消失又同世八右一  
 足岳之泣耳ヤ将哭  
 岳危  
 摩  
 ▲蹉跎也 伊勢物語云  
 井テコシ女モナシアレスリシテナクカヒナシ 源氏蜻蛉  
 云アレ云リトイフコトヲシテ泣サハワカキフモノヤウナリ

あふ  
 古事記カキカヒニ阿斯布麻  
 復那十四ノ土右カリハ子ニア

シフニシムナクワワケ  
 ワカセ▲足令踏莫也  
 あ  
 才ニアシカラ山ニ  
 舟水キリ云々

毎ノアシノカレキラ  
 祝ニテ毎作歎  
 あを  
 七ノ四ノ左足速  
 ノ少舟ノ十四六



左アシカラ山舟▲忘神記五年冬十月科伊豆國  
枯野舟 古事記仁徳段ニ枯野

あなをふく 十一ノ十二  
十三ノ十三 あなをりざん 十一ノ  
十三ノ

▲以下 古事行記六コシナツ  
ムソラハユカス西斯用

由久那 十一ノ十三ノ末 從足行也 ▲淮南子云極溺之人

不得不濡同左三▲学スル也 十一ノ十三ノ末 あるひ 十一ノ  
十三ノ

十ノ十四ノ十七ノ十三ノ二馬醉水トカキテツ、ニトヨメリヤ  
十卷三モ六帖ニ入テ共ニアセシトヨメリ 或赤人集  
類聚等  
コレニナライテアセシトヨニニコトナカフニ致然  
トセ一所カナニ書ケル所ナケレハ決定ニカタシ業  
ニコノアレシトヨメルモツハキ花ノ頃トヒトシクサ  
クトヒンミアニリノタカイナレモシアセシハアセボト俗  
ニ云モノニテ古訓アシヒナラシカ俗語ハ近ク普通  
セリ奇異考自慶無除馬醉水無所考本草  
醉魚草 漢人采 あしじりをとこりある  
花及葉以毒魚







十二イタミモガ阿世袁 景行記にヒトツミツ阿波例  
古ニハ一阿勢 袁トアリ ムコノ語ノカワレルヲミレハアハレト同意

ナル 十四ノ六十七カナリ 廿右六廿一右二十  
ベレ あせり ソナリ左五廿三左アスキセサメヤ

通テナセ不著將有哉 廿五左同注廿八右何トナリ  
廿五左九廿三右熱尔汗カキナケキ木根取喃鳴登

流日本後記

あせり

留 菟恐

あせり

少十右四馬醉木 本ツミレ六右 類共アセ

同十四右 六ナリノ二右

五二ノ廿六左八八ノ十五左

いん

内朝臣カ也 内武

内内

才十六ノ哥ハ八姓ノツ

ノ尸ニアラズアソト 云事源氏ニモアリ私記

云師说帝王相親之詞也言我身随流之臣也子

意ハ阿ハ吾曾ハ流ノ下畧美ハ臣ヲ於美ト云上可

ナリ流日本紀才三十二云口阿曾為朝臣足尼為

宥近諸如此類不從從言云云 朝臣ト書セルハ朝

廷ノ臣ト云意ナリ訓ハアサオミナルヲ左於ノ及曾ナリ

今ハ美ニ 通武ト云 也亦朝廷朝暮義異ナレド字ノ意ノヨケ

レハ假テカケルナルハ業平ノ息ノ棟梁ノ字類也

神功皇后記 于池能何層 仁德記 同十六左



右池田阿曾ガ 穂積ノ

一〇平群ノ

あはれ

継体記

ニサキツラ

夕、キ阿藏播梨、真辟葛即ナリ遊仙窟云柏榻  
奶房ノ間云、古事記四ソ夕、キ夕、キ麻那賀理  
己ト同意歟若シハ阿ハ發語ニテ藏播梨ハ障ニヤ  
神武記云、キハ佐夜羅孺コレハトヤ同韻通スル  
故鴨者不障ナレハ藏ト佐五音通メ同キニヤ障ハ  
觸ル意ナリ。又繩ヲ綯ヲハ糾ト云ハ文ルヲ云歟  
糾ニ股繩也也。箱ナトニ有物ニ尋ヌトテ上下次ヲ  
シ乱スヲアセカヘストモアセカヘストモ常ニ云ハ阿ト

ナト同韻通メセカヘスト云ナリ又キ、又ヲアサ  
ナフトヨムモ文ルヲ云ナリ 和名鈿ニ校倉阿立久良トア  
ルモ義通歟コレラニ比考スルニ文ル意ナラハサ  
キツラハ交笥スルニ夕トヘ夕ニフナルヘシ

あはれ

雄略記三ワカオホキニノ阿蘇

度斯志シノ十三ニ廿八右ニ梓

大御年ニ所取賜而所遊我王、所遊歟是也  
射夕てイニ庶猪ト云意ナリ何ニテモ考人ノスル事  
ヲ遊ハスト云ハ古語テ今ノ俗ニモ云フトナリ古事  
記中卷仲哀天皇段ニ於是建内宿禰大臣白



悲我天皇 猶阿蘇禊 盛勢其大御琴  
云々此類ナリ

あはれくさアラト

四ノ右タヒヲ便宜ト思フ  
公將レ有レ一具雖知レカス

○あはれくさアラト  
云心ノ後ツ濁ルヘキ  
アソノ友サレバヤナノ後  
ナラムサレモ推量ノ也  
推量ソフハ思ヘトナド  
大方サハ思ヘトモ

カニモタエアラ子ハ  
管見扱ニアソクナリモノヲ推  
シ心得タル詞ナリトイヘリアソクト云詞ヲホカライ  
ニ夕見反ハ子ハアソクト云事モ一タシラスイカサニ  
推量ノ詞トハキコユ若シモノヲホカニ知コトナラ  
ス知ナトヤソレハアトウソトス  
皆音ヲ通レテモシソレニヤ侍ラシ  
あはれ  
フサ  
カリ

日本記五四  
トメアソビ  
九世ニ右セノ十八左ハノ  
九小驟  
十九上ナ六十二  
十五ノ左セノ九遊内  
同甲十二  
左アソト師△和名  
欽云揚氏漢語扱云遊所  
女見和  
宇加礼女又  
云阿曾比  
○師云アソヒトハ以用名  
体ナリウイ

あはれくさ

十八九右首  
遊所女婦

あはれくさ

神代卷下ニ阿堂插  
怒分茂答△不與哉也  
雄畧記云童女君者本  
是来也也天皇與一夜  
而眠云云此与ノ字ノ  
意ナリカモハカチノ  
古語也  
同床ニ寝テ一夜ヲ  
アタハシ給フ事モナ  
ナリ



あゝあゝあゝ

古事記上三阿多尼都伎

▲夕トカ同韻通スルハ苗揚ニヤ

あゝあゝ

渡ルモ三ツ左其山ノ水ノ當リソハ

十九八邊ノコロ十四ノ世左家々一カモ

○ワタリニ通詞

フシ河ト人ノ

あゝあゝ

十九ノ世左亦ハガシハアタ  
カモ似カ青蓋▲宛ノ

同宛然猶依然○

あゝあゝ

一ノ世三左新代  
三五十九新世

怜韻會云適當ノ詞

六ノ世三右同コレハ世ノ轉変ノ心アリ○廿五左年月ハ

アタラシク○アタラシキ年十七ノ十四右新年ノハジメ十

九ノ世二右一初四十七右一始○續日本紀高ハ十三

三左新夜ノ好去通ハ十三二右新夜一夜改ニ毎夜

△アタラシセハアラタニメワラシキ代ト云心ナリオ三

ノ新夜ハカリテセノヤウニ立シドモ次ノ勺ニ夢ニ見

セコソトヨメシハ夜ニアルベシ心ハ代ト云ニ

同シカルベシホメテ云意公毎年改ニ心

あゝあゝ

雄畧記七阿拖羅斯也惜イナメノ夕

クニ亦阿拖羅斯奈波○古事記

七阿多良須賀波原亦一須賀志メ○日本記

惜古事記上難於田之阿埋溝者地号阿多良



斯去許 三四十五アタラ船杖ヲ十ノ世六左ニエヤ  
 アタシ 十三九右ノシキ君カ世左船ヲ惜シ世右  
 故山ソ惜山ノ荒テク惜シモ○オキ五右ノキヨキ  
 ソノナ○カ土右アケテク惜悵夜ニ古事記上御常  
 ニモ云詞俗ニアラフト云リソコ子テ後ヲシト  
 云ニ同ヲシムト云ハコトナリ愛惜也メツル字リ  
 アヒラルヨリ  
 オシムナリ

あまのつね

六右五右

賊守能

云筑紫國者元成邊賊之難也其城深  
 隍臨海云代々ノ史ニ見エタリアタハカタキ也  
 アイテニ同源氏ニアソヒカタキトアルハ小兒ノ友達  
 ヲ云リ○宣花記ニ夏五節曰ク一夫筑紫ノ邊  
 迹之所ニ朝届去来之所  
 関門云々○天智記水城ノ一

あづ

ナフ九左ニ異手挽吾纏部

あじ

まの

十三世右人ハ荒物ワウセモノヨ人

訓如依難

借為化

十七花物 京テニ命ヤハ何ソハ露ノアタモノ

異如字ニトニ化ニアラス  
 官中化ラ花ニ作ル



あざん

十ノ世ニ在安太人ノヤナチクワタス瀬ヲ速ク  
七十九左安太部云々神武紀云亦有レ作

梁取魚者

梁此云  
柳奈

天皇問之對曰臣是苞首擔

之子

苞首擔此云  
耳倍毛免

此則阿太之養鷓部始祖也

オチノ部トハ

あざん

三世右  
價無宝

續博物志 魏田父耕於野而得玉置玉於室

是光燭一夜獻魏王王工望而并曰此无價之宝

法華經云无價宝玉繫其衣裏与之而云云

大般若四百九日譬如无價宝珠

あざん

十六ノ世右味飯ヲ水ニ釀成。同  
高右飯喫ト味ニ不在

あぢ

三ノ十六左邊ツカタニアチムラサワキ  
四ノ十一左山ノハニ一ノ同右一ノチトハ

ユケトナセノ世六セノ九右一ノトヲヨル海古ノ五左

一ノサワキ十四ノ世ニ右同ナラハ右一ノ住スサハムアチ

鳥トモスカモトモ云テ小鳥トモ云リ群リ飛モノ

ナレハ村サワキトヨメリムラハ群カリカ子ハカリノ音

ナレト名ニ云コトクムラカリ居又飛ナレハニワヲモ

アチムラトヨメリ或云小カモヨリ大頭ノ毛斑也腹



白頰巴有紋此備似刀鴨也コシ類ナリオナ  
廿六レシホハナノ縁語ナリナノ廿八右味錦之堤津  
平云云十四ノ廿五ニアキカクニサク浪同六カケ  
ノニナトニ堤中御言物語ニヨシナレコトニツクモノ祭  
ニカウクナルアフニナハニテモニ銅金一比メ近江名  
物トセル物△共ニ石富ニ云々釜也釜ハ塩梅ヲト  
ノ故シモトツク云云オナニ耳ニ

注外ニ石叶回テ四アチテ原此ニ音ノ酬ニ居ルナハツク

### あぢまのり

古事仁德記ニ河遲摩  
佐能志麻由美由ノ擴

擲日本紀廿七之一人名古事記中廿七宮名和名  
扱ニハ訓ヲ漏レリ此島今聞エズ名ヲ改メクル成  
ハ中庸云苟不レ至德至道不レ凝  
ニあぢまのり 焉ヨキコトノアツテリ定ルタイ

ナリアケサフヲ云ニ同時多相ノ意ニテヨキヲノ多  
クヨリ相ソナレバ類語ナリ字書ニ味則色義如聚  
袋味又當集ニ味寢是則アヂ子ニ同シ神代卷  
上教ワサハコトナレドモ其意味ハ教ヲ受ル心ニテ  
カク訓ズルニヤ今俗和訓ヲ用ユルモカレコト通セリ  
及藝山藝ヨキアシキニツキテアヂガヨキ。ウニキ。ア



ハイカヨキナド通メズリアヂキナシト云言ハ右ウ  
ラナルベシノ又凝トハ水ノコホルトイフト同詞ニテ  
カタメルヨモイヘリ神代ニ潮凝成ニ嶋下ニ又テ  
世六右味凝ノアヤコ之ニキ六ノ土右味凍後ニ之シ  
キ土世八右味録律ヲサシテ云々前未詳ム味ト  
ハ色云聖以色称味本據可考己上サテアトツ  
ケサレトモアチコリトイフ詞此集トアレバ色ノ説  
ニ不及強コアヤトツケサレトモアチコリノ詞未勸

### あぢさゝ

テ世三左味沢相目辞モ絶ス六ノ  
六右一姊目石敷見ラ九世若

ナテ六右一目ノホル君ガナニ十左一目ハ非不飽  
△己ニ淫スルコトクアヂハヨキ儀サハ多事也フハ  
如字アツノ上畧ナリヨキコトノ多ク相アツセル意  
ナリオニ目辞ハ真言ノ儀ニモアルベケレド外ノ  
ニケ所共ニ目トツヅケレハモト目ト  
ツヅケレハ真ノ字ニ目ノ字ヲカリテカクセル也

### あぢさゝ

ナニ世右ニ小豆嶋同九亦一奈九ナテ  
七左一無△無道 無形 无端 日本記  
○天此無為ノ心セニカタ無ナリ 史記ニ正字有  
ト云云未考目ヲ見合○目ニシホサリナド云意



ニヤ愛キヤウコボルハナト云ゴトク目ニヨキコト  
ノ多ク相アツて人ト云ホトノコトニテアヒキヤウ  
コボル儀ナレヘキニヤコ人ノモホハ目ニアル心欲  
地選古詩無為窮賦憾何ノ長昔幸タル

あらし

四ノ五十七右コトハ又木尚味狭藍  
廿四十六右海治佐為能ヤハサクエ

トク同音左ニ密味狭藍花△和名欽白自氏

文集律詩云紫陽花

和名布豆依為

和名并六帖ニ草

ノ部ニ入タリオオ巻ノヤハサクトハ花ノ多クヤウ  
テリ苦ケバ大リヤクニヨメリ六帖ニ四ニラニサケルア

ツサ井ノ花トヨメリゲニモ四葩ニ咲リ當集ニ味

狭藍ノ味ハ復辞狭藍ハ藍也花色女似源

藍ハカクカケリ狭ハモノニウ人云コトツ子ナリホ女

ノ意モアリオ四ニ木トヨメルモヨク生ヒ云ハ四葉

ニ及宿枝ヨリ葉ヲ出セバ木トモ見ヌルニヤ首

ヨリ有トミエタリ藍色ガ木色ニテ白キカ弥

エリ緩メ元藍ノヒ近年少ク近頃初テ見タリ

山ブキノ一章ヲ疏ク植ルカコトシ

あつ

四十九右忍被奈胡也我下  
スニ厚ト云コトヲ文ノ備リ



用ヒタリトモ云ベケシ下古事記上牟斯史須麻ト

アレバコノモムコブスデトヨシコト正義ナルベシ

垂ハセリ

下出

あつ後をさる

四十八左東女

アツコトメ

三十一左東人之アツノ

廿九左アツコトコト上ノ廿九右東方板足口古事

雄畧祀八河豆腐一景行記時日本尊武毎有顧

弟攝姫云情上故登碓日嶺而東南望之三嘆

曰吾孀者即此孀者云故因号山東猪國曰吾孀

國也上野吾妻阿迦郡 同云文選西京賦云虫

ヲ眩邊鄭訓阿豆虫眩阿佐無岐加 東今ト云ハ

藏人ノ訓例菅家万葉

二津ノ假字用

あつ字云

九ノ五

熟

ナニナ右右ニ 四ノ八 同三十四左

西世四右七 ▲ホミナラヌ玉ニモカレ

あつさゆ

丁十八右脚執行乃梓弓之切三ノ上左梓弓引ハ亦一

緒取ハ分引 廿七左一 声 仁徳祀古阿豆磁由跡

ユニ古事記六△和名云孫面功韻云梓音字和名 阿豆佐

楯之屬也下 一名水玉渾雅云百本長故

呼為水玉カ或云世同百張△梓弓信濃ヨリ

貢ス○大呂ニ三口景雲元四○延喜式口元慶一五



等可考才二抄以書

△神樂奇ワキヨリ三月

流日本後紀十九卷修法之方辛廣美

大悲者之後字厚美△原山云詞ヲカテヨリ

あつこ

十六世右山阿ラ

ヒロミアツコト

あつ

あ

十六世右水葱ノ者物△養也楚辭  
注云有し菜曰養無菜曰臞

あて

五世左墨儷ヲハタルゴトク  
チカノ岬ヨリ大伴御律ノ源ニ

ニタノ泊し船ヲ泊△アテカハト云同ナリ擬ノ

字儀ナリ墨儷ヲホノ本ホニアラカフガコトシ築前

ノチカノクキヨリ十三ハノ三津ノ

濱ヘヨサニニ舟ノワカニナリ

あてさり氏

十九世九右田方ノ人ヲモト慈賜へ者△ワツラハ

メト通ス仙覺説也不審モシ不中障一録

あて

十六世七右持弓己東卷易  
中見ハカレコレトクヘルナリ

あし

十六世四足音  
〇廿八右五

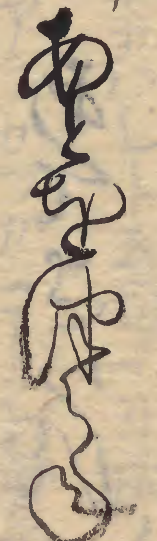
あとし

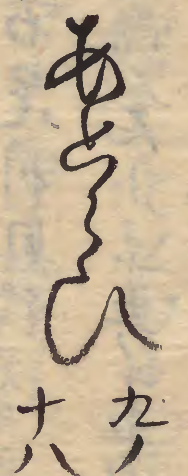
七十五〇  
但跡ヲ企

あとし

日本紀卷一阿都圖利都摩怒利  
絶底△跡取也神代卷三脚邊ヲ



アトヘトヨメリ衣ノ後ノスリクサムル意ナルヘシ  
 妻モ衣ノ妻ナリ妻取ニ對シテ後カラゲトイヒ  
 カコ カコ 古ノ左リニメガルカケリ和  
 トレ トレ 名鉄曰辨色云成云 晴 晴島 比阿  
星一 揚氏漢語抄云 鴛子鳥。臘子鳥 天武記  
云胡在 臘子鳥 十五 △俗アトトリノ火ニタハルヤウニト云  
 リノ上ノ五あともささるゝ ▲ 驗ナキナリ 和名上同  
 今梅雨説所出未詳但本朝国史用鴛子鳥又  
 或説云此鳥群飛如列卒  
 之滿山林故名鴛子鳥也  


ナニ世左當土足迹貫る。○ハノ甲九右且往鹿ノ  
 跡モナク。○上ノ上左大野ヲノ跡狀不知。今ナニ  
 上左念ヤル跡收モ我ハ今ハ無  
 ▲ 當ノ迹メトナリ人多行通スナリ  
 右ハ御ウヒ ▲ 日本記六ノ四右則 詭后曰クコヒコ  
 シラヘタノミ置心カタラヒ置イサナニ置トイフモテ  
 分リテハ通ルヤ古々吹同ニアツラハツリルモノ  
 ナラハ△俗ニイサナフヲカタラフトイヘリ  
 右跡座 浪之之塞道ヲ△  


あとの浪之

右跡座 浪之之塞道ヲ△  
 右跡座 浪之之塞道ヲ△



不祥ニホサ井ノ井ニ通スル物 案スルニ座ルニテ

即浪ノ立坐ニヤ但跡浪ト云ナラム跡ノ白浪ト

云同心ナラム 七ノ廿二

シホハモノニツクルナリ **あと白浪** 七ノ廿二 重九ア十

**あともみ** 十五ノ廿二 六ノ十四右 跡見 居置而△と案

**あともみ** 十五ノ廿二 跡見九ノ十四右 足利思代 見牛息

**あともみ** 十五ノ廿二 十ノ廿九右 阿跡念ト 十五ノ十五左

**あともみ** 十五ノ廿二 十ノ廿九右 阿跡念ト 十五ノ十五左

宿掃毛倍香 極善也 伊ノ廿六 **あともみ** 十ノ廿九右 阿跡念ト 十五ノ十五左

ケダレハ跡思テニ変セリ 才十八師云跡ヲ才モ

下聞エタリ跡ハ過ニシ跡ニテ昔ノ心ナリ才十

五ハ是ハ故卿ヲサシテ跡トイヒアトヲ才モハハカ

ト云歎六帖ヨ人の心成りてなるをとしりあま

ト云歎の句ヨ人部ヨるは成り鳴と云あともみ

**あともみ** 七ノ廿二 右ハシイクサヲアトモヒタテ

七ノ廿二 右ハシイクサヲアトモヒタテ

ヲアトヲウトヨメリ戦國策ノ怪ニ誘ナリトアレハ

ト云心説文訛ハ相呼誘也コト正し 和語ニ通カ

字彙ニカナハス 勧勤 △才七才七ノ奇ハ誘共



定メガタシ。誘ノ字ヲワカツルトモオコワルトモ  
ヨメルハスカシアサムリ心。抄ニ誘字ノ心ニヤ亦何ト  
オモフカトイヘルトモ聞ユ。▲雄略記七  
誘卒 師云日本記ニ誘トヨメリ

あし

あし  
十<sup>八百</sup>世<sup>五百</sup>右 十<sup>八百</sup>世<sup>五百</sup>右アトカハ何トカ也 十<sup>八百</sup>世<sup>五百</sup>右ニ  
止左ニ 止石アセハナリナリ ▲何思字

也

あふ

三<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>左痛醜 四<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>左痛夕ツク  
十<sup>百</sup>五<sup>百</sup>七<sup>百</sup>左一情無 八<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>左元氣衝之

十四<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>二右同カ 十六<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>三左一ウタクシ ▲古語

捨遺云古語事之甚切皆称阿那 日本記云九

大醜卒一 此云鞍奈陈佈句 旧事记ニ阿那於茂

斯侶 事之甚切皆 称象面明白 アラト云ニ同カ 十六<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>ニア十

干稻倉稲シ 十六<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>九左云安奈尔カヒ

吾希ラクハ 十六<sup>百</sup>世<sup>五百</sup>六右ニホヒハ元安奈

加<sup>袖</sup>中 神代卷上妍哉可愛少男物 妍云阿 而惠夜

古事記云阿那迹 夜志哀登黄衰 神武記云



三十有年長四月己酉朔三日自註アリ 鞅示珥夜  
奈ト夜ト同韻通アヤナリ 妍執字ニヨシハウルハ  
ニキ儀ナレハホムル心ナラム 方言云自關以西秦  
晉之故郷詔好曰妍 妍同妍美好也 鮮トハ  
艶麗也 韻會 伊物ニ  
アヤトイヒケレト **あるへ** テ十七左  
葦若未

乃足痛十四世右ハテストリアヤユムコニ 聖名集  
曰説文云蹇 音大訓阿之奈因 行不正也 又云醫  
家書有ニ脚氣論 脚氣一云脚病 俗云河之乃か 史記吳大伯世  
家云公子光詳為足疾入宮 寔室在傳云光傳

足疾清少初言病者 ム子物ノケ足ケ源氏若  
菜下云ニタレカク病トモノオコリトコロセクオコ  
リ煩侍テハカクレクフモ立ル事モ侍ス口宇互保オ  
十五ニタレカリ病イタハリケハツキニツイテ云云自來他  
足端アナスエトヨメハ口、モアナナハクノ重ルヲ畧メキ  
、ヲヨロシクヨムナラム 又足結ヲアユヒトヨメリノ源  
玉鬘云唯水鳥ノ陸ニニヘルコ、ナシ天文七謝平  
原内史表陸士衡陸沈之羽云云 善曰莊子曰  
孔子之楚其隣有丈毒臣妾登極者仲丘曰  
是陸沉者也 白陸沉謂無水而沉也 文碑云



三辨散樂集邑上宣学<sup>所製</sup>猿之奇熊莫記

○東方朔傳<sup>史記</sup>歌曰陸沉於俗謂無水而沉之

あかあま神代卷下所奈陀磨波夜  
玉の穴ヲ穿テ緒ヲ通ス物ナレハ

完玉ト云痛甚十六ノア

てガハハカテ出ス 友ニシタカ

ハニト云<sup>史記</sup>アヲメ我身カラナリ

甲ノ世一五者恋ニ豈ニサラヒカ

十ノ世一五同世三右

エノ十五左六 事詳

あのみ

十四ノ十八左ニ所右

あのみ

十四ノ九左一セスユカムコマモカ

十ノ十右カ ▲足音ナリ

あえ

二十ノ六左零雪者安帰ル勿落カ四ノ

五十五左流流ニヨリテ流流ヲカレリ

▲流ハ阿和ナレバカナタガヘリ流雪ノ意ハアラ

ザルベシ若亦假字通スルニヤ梅ニ流ノ意歟

流路ヲ和名扱ニ阿波

知トアルヲ澄トスヘシ ありあつさ

カチ七安房ル速有△上流ノ末ノ

跡名カヲヲヨメハ上流ツケルト云也

ありれ



泉記五故サヒナシニ阿波礼同七故ヒトツツ  
阿波礼同十六日立ニ古事記允恭記六編同  
雄畧記三ノ甲四左此核人何怜四五十三右如  
是何怜縫ル囊ハ五十五右同 七ノ右夜渡月ヲ  
何怜 四ノ右九ノ右同オモシロク 十八十九右  
一ノトリト加▲可念 遊 象七七八 回事記  
古語拾遺等ニ阿波礼トアルハ  
同言ノ天晴也オモシロシ尾ヨメリ

あやし 十一百六十三百六  
あいの志も 十四六

十四ノ百二十五  
アスニテモ也 あはまよ 三十四百二十五 十四ノ百六右  
十の右十六十九キ

粟 二粟 あいふ 神武記七略阿波越耳▲和名集  
云泉記云泉田 又作粟

此訓淺弟生 蓬生等ニ准ラハ粟生ノ意ナリ  
粟多作凡白ヲ云リ和名集ニ日本私記云豆田万女  
トアルモ同意ナリ因ヲソク  
凡云ニ同キ物 コノ部ニ入 あいふ 九千左  
不令遇

あらしまのて 十五百六十五七△まハ助ナリ  
ロリスト云ヲコリスニニト云

粟古字



ありち

古事神記一阿波志斯袁登賣  
亦トト之袁女美那十八世石ア心

タレノ由ノ世ニ左アホシタモアノヘシタモ

○為相ノ古語ナリ之ヲタシタルト云類

ありせや

十九ノ  
土タカ

ありせ

十三ノ  
裕

ありん

あて

アスアウタカト云ハナセノ四七右モトメ  
△モトメアハサリケト云ナリモトメ

あひたま

武烈記六阿波富之羅陀麻  
六十六右アヒタテセノ世石

▲右質切盈

也 餘也

あひたま

ハノ世右白珠  
相佐和ニ誰人

カモノチニ羽巻ナフナラニ右相佐丸ニ吾ウ欲云

○四世ニ左多奈和丹▲逢多ト云託ハ用ヘカラス

サドサワ假字違ヘリ朱四ノオホナワト通スルヤ

伊勢物語ニアフナクオモヒハスヘシナソヘナリタカキ

イヤヒキクルシカリケリ源氏物語ニシヤ朝標オホナ

くト云詞タタモ抄ニ共ニ同シクシテ子ニユロナル心

トイヘリ通スルヤウハアトオハ往来通トヤラニ

云テ角南違ニ通スル也其例○アタニトオタキト

アチサハフナトキラス  
ニナキラス キレル



○タワトトヲトヲトのワチノクトヲノクト也フトホ五  
音サトナ同韻通ナリ 師云大繩ノ儀ニテ俗ニモ  
シカ云詞アリテ大極方 凡ノ意ナルヘシトイリナ  
レトモカレシ通メ心ウルニ子ゴロノ意ヨクカヨヒテ  
キコユル  
ナハノオカ右ノヒカリニシテ  
テヤ  
次トモシクノヒカリニシテ  
云クナノ世六左ノ和名云唐成云每城燈式四七牧  
和名阿  
布良都岐 延喜式字訓共同

あ  
古事 推記 美豆多麻字 岐 尔字  
岐志 阿史良 阿ブラハ 酒ノ濃トテ

石著玉 亦同八行 籟玉 ナテ土右世六左 十六世ニ  
左切 高左日 △真珠ハ籟ニアル故ニカクツケタ  
リ和名抄云古点ニアクヤタトアリ 此訓耳ニア  
リ今伊勢國ニテアコヤメセトウルハ山サキモノナリ  
アハヒノ玉ニナリヲヘ云ニヤ亦アハヒヲモ云セ七世一  
ノ哥六帖アトトノセテアコヤト点セリ

あらのあらののういあゆみ  
キ十四世左  
籟ノ見之 甥

念ニシテ和名抄  
附石生ニナリ  
ありき  
十四世左ア城ニヒ  
モニテアヒテ



あひびく 年へユケ八月ノ一ナフ五左十五  
四ノ三三十三ナナ十九十六キカス

あひびく 六十四左有し間二一ホドノ心也十五四  
十二右六同世五左六世六左四五十二世三

あひまき 七十四十三コモコソラ  
ハ世三相キ

あひらうあひ 十八ノ世左神一  
アヒハ詞ナリ

あひのまゝ酒 右十九ノ四十二  
カトウノ言  
出ス

あひのりぬ 十六ノ十五  
あひてまゆ

えん 十七ノ世三左妹ツアヒテ早見 一逢テアイ友  
イナレハイテニ同フメユキテノ意強古哥ハ、

あひさ 十三左 綱引四ノ世九右同セ  
十二右同十一ノ世七右同

あひて 八ノ十七右アハ雪ニアヒテ五十五  
アラレテサケル 梅花

あひのりぬ 十八ノ世  
あひのりぬ











女十七ノ八七ノ花 △神代海濱  
アノ夕天武御名大海

あまのひつぎ

八世八左木末

歴色附タリ

あま

推古記を天ノ八十蔭也  
次ノ二万ノウ、キヲ以シ

八月ノ異名也

一あまのむら

あまのひつぎ

十八十八左ア、  
ノ日継トタ

コノラー一十九ノ九右天之日継ト神十カラ廿五左

△帝位ヲ相継ニ信フ一ノ日神御末テハナリ皇流

不絶ツカセ

あまのむら

十八廿三五ノカセ  
ノ三ヨ

信フカ故ナリ

モアヘモノトヨメリ

コノ心ナリ

あまのむら

十九十九君アハル夜  
八廿五友ニハル時

十八ノ右

君アハル時

あまのむら

土ノ世八右向倍橘  
口訓言ナセノ十左

橙橘初咲同世四越中凡至希有橙橘也

和名欽曰七卷食径云橙

完耕及和名安  
倍太知波奈

似柚而

少者也此注ニヨレハ今花柚ト云モノ欽 安倍氏

家平安陪ト云所ヨリ出ル故名ワクルニヤ本草

或事韻合壁ノ説考へし時珍曰柚属也亦皮

厚云云和尔雅橙

タククカラス  
アハタケハナ

金毘同本草説合



耐ハ韻會云説文進取也廣韻犯也增韻也恐多也○榮ハ思切テト云ハカニシノ心トキナリ

○橘ハ味ノ甘美ナレモナシハナリ柑子モ甘子歟  
○糖云格物諸云橙橘枝葉不類於橘亦有  
刺大者如杯苞黃皮厚香氣馥郁可以薰  
衣可以漬密真佳實未熟右合璧畧同

あつむ

三十四右競散六カモ○十世右ハ後將  
堪カモ十一世ニ右同八右セキク耐カ

七世八右塞散十五ノ十六左又又十三十五世  
右モ子アハカモ十九世右オイツクアカモケタモ  
アハカモ廿世一左五才モハナクニ▲堪又ナリ  
不勝<sup>ナリ</sup>古事雄畧記袁由岐阿因

あつむ

三十四右一榜出ハハモレツケレ  
九人右散而榜動息モツキア又

サマナリ勢ヲイタセバ  
アヘイツルナリ

あつむ

三十四左海路ニ  
出テ阿倍寸ツ

我榜行者▲和名欽云唐韻云

欽昌苑反字也  
作崇阿倍岐○氣引額也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



あまのつね

十四ノ世左六  
十五ノ世右

あまのり

六ノ四  
十六右

海石の三ノ世之右海女多才六十六

海未通女七ノ十三上ノ世七

あまの舟

十六ノ世の〇一ノ世ワタノソコオキツ白浪立田山十三

三ハツセ川ニウラナカ云云アノツリセ又十六ノ世

海小舟十五ノ世左

あまのりあし

十六ノ  
十六左あま

上ノ世七左海舟

あまの

四世九右遍多ナケリナゲキヲ五十四右  
遍多数の元茶記ニ阿麻多ノ子ス

あまのつね

十三七右天照日如之余

▲日並白王子也十五十七右

タカニテ

あまのり

十六ノ  
十七あまのり

ル月

十三ハ左

あまのり

五ノ七左四十左十三世六右

天浮橋類

天道の苗日子建身具秀

皇書

あまのり

十三世三右天原振放見者  
大玉ノ十四ノ四右アセムラ

天道

フシノミバヤノナ十三世八左

十五ノ十九左十六世四右

あまのり



古ノ五十  
五ノ世也  
あまのそと  
十六ノ右天ノ空  
十七ノ天水窟

あまのそと  
古事記三河麻登丈登理  
母都加比曾ニテ七左天ノ飛也

輕路ハ四世之右天翔飛同ハ八世之右ノ一ヤ領中  
カタミギ十世八五夕ノ夕ノ天津領中カモ十五  
右一ノノ翅土在右一輕ノ社同也右ニ雲十五  
正左一カリヲツカヒカム先恭記古<sup>七</sup>河摩儂<sup>露</sup>  
箇留塚等<sup>實</sup>古事記<sup>七</sup>河摩院<sup>宇加</sup>  
流衰登<sup>實</sup>アトフ鳥云云不及カリモ同輕ハ

天下北多ハカルキ事ナレバ輕理ニヨリテツケケタ  
リ領中トツヅクルハオニオナニ天津領中ナドトツ  
ヅケテ天人ノ羽衣天人ノカケタル意ニテツヅクルニヤ  
アツシ日本記并古事記ノアヒタムハネト為普通  
ハトフ同韻通メ同キナレヘシ共ニカルトツヅケタリ  
古今白やまより<sup>て</sup>ちり<sup>り</sup>の<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
師云加<sup>ハ</sup>丁也五音通スレハイソノカニフルトツヅクル  
心ニテイソノカシフリニシ<sup>早</sup>トモカリ用ニ西ホハウ<sup>ス</sup>  
ニシキ物ナレトソルスノヲノトイフ時ハタルトモイハ  
ルハタリナリ<sup>世</sup>古事<sup>人</sup>同世云<sup>聞</sup>以有<sup>一</sup>羽<sup>登</sup>也



者矣未聞以爲翼飛者矣 欽明記云別遣使迅加飛鳥 奉奏天皇

あまのりハ 八世二漢世四漢原多 十ノ世六世三十八世三 あま

了云 一奉之 却義 七十六右一 日多浦 二点

浦ヲサレテキスレト 誤アリ 浦ヲサレテキスレト 誤アリ あまのり

五世左一見渡シタニカ △天飛ト云ニ同九十五 天雲翔ル一モヨメリ 天飛ニ意同 或ハ出雲 國造神賀詞云天翔國翔也 天下半見迴也 云云△浮氏ウツホ校衣ニアルコトハナリ

あまのりセツル 古事記上云イシタフヤ 正ハセツカヒ 同即日△

天馳使也 天飛天翔ニ同意 飛石ノトク空行使モカナシ あまのゆゑ

十五世左 十六世右 十七世左 十八世右 十九世左 二十世右 二十一世左 二十二世右 二十三世左 二十四世右 二十五世左 二十六世右 二十七世左 二十八世右 二十九世左 三十世右 三十一世左 三十二世右 三十三世左 三十四世右 三十五世左 三十六世右 三十七世左 三十八世右 三十九世左 四十世右 四十一世左 四十二世右 四十三世左 四十四世右 四十五世左 四十六世右 四十七世左 四十八世右 四十九世左 五十世右

△遠國心ナリ遠ク空ヲスルハ 天飛ニ地ニ落タルマウ△カヒフシテ 二十ナリ神印皇言記 神代中ニ 大跡曰津城奈巧トアル此心ナリ 三ナリ或ハ新言説曰△夫由



依霜極白雲能隨坐白依  
限ノ云云古事記序

リ  
三十九

十三廿九一念ハラシニ廿五右  
天雲ノ向依國 五ノ七左

あまのつらよをのりて

十一廿五  
夫雲ニ羽異

お附而飛鶴九ノ上左天雲翔雁七廿三

千賀ニ系院白雲ニハ子おウケテトフタウノハルカニ子

依ノ思お九カ子 古奈白雲ハ子ウチカハシトフカリノ

カツサハニ云ル 菅方ハ拵哥類

あまのつらよのりての極天のつらよのりて

三十四右十九廿七右 中痛云声名洋溢乎中國

施及蜜蜂舟車所至人カ所通天之所覆地

之所載日月之所照 霜露所落

凡有血氣者莫不為親

あまの

白雲

十五ノ七  
十八廿三

あまのつらよをのりて

十一

右十九廿三

あまのつらよのゆりまきく

七ノ廿六

十九ノ廿五

十三ノ廿六

あまのつらよをのりて

十三

あま



の下のあひ人 十三ノ廿九 あまの志

十廿六右久左ノ天印ト同世三右一乃天驗トテ

天地下別ニ 十八廿三左アテテラスカモノ御代ヨリ

ヤスノカハナカニダテ、 あまの志

△神代ヨリナラハシ来也

二四十一左天教凡津子△津子ト云ニカタメナリ

日月ノ行度星辰ノ舎次ナトヲカゾフルコトハオ

ホヨリナルコトナレハ テ廿八左

カクツクルナリ 天領中隠

十廿八左織女之天津領中カモロハノ世三右天

河原ニ天飛ヤ領中カタヒキ ▲オニノ哥ニハ七

夕ノ歌 セハ左十一ノ五五

ナリ ヒサカタノ

四ノ四ノ右 ヨチド

あまの志

云リ牙十八織女之トアレハ領中ハヤノカクルモ

ノナレハヨセモアリテツバケタリ 鏡目本海紀十

九ニテ取飛トアリ天人ノ テ廿七

心ニツクリルナリ 左天水



御而侍 十八廿三左一アウギテゾツ十四廿三左ヒガ  
テバアマヲミトノスモミラトトモ △オニモ西ナリ  
オ十四ト比シク喻也オ十六八団五月六日以來起ル早  
百姓田畝稍有凋色也云々一サシク西ノナリ  
景行紀云山ノ神之興云雲零雨水史記晋世家  
曰再拜曰孤臣之仰君如百穀之望時雨

あまのあそめ

續日本後紀十九  
天也東通 互

あまのあそび

六甲田天雲合七廿三左一相水一モハノ五十五右  
一之ナリ六十五左二同 △カスムト云二同詞ナリ

天河ノきりこ

八廿四〇十ノ廿九廿八〇十六ノ  
廿二星天河ヲヘタラシク

キリノコキレニ星

霧右ヤウナリ

あまのあそび

十七ノ四十五  
ニラクモノナ

ヘヲオシワケク一タカキタチヤハ △上ヨリヨコタタ

セルヤウアヒクダルト云伺トキユレト未詳 神代

卷下産出之見ヲ號ス大闢降命

是海人等カ始祖也  
大闢降此云稗

表里 ストソト通ヌレハコシモホソウノ命歟亦コノ

アヒリクモアヒスワリニテ昂降ノ字ノ意ヲ天

降ナルヘシオニノ十六左七右天降付天ノカク山日

そくくモルイ



コレモトソ通スレハアソリ  
ツリニテモアルヘシ  
あまのあや

ナラモ右天乏足夜尔左月日十四右コヤノシキヤ

ニ△海人葦屋石辞 アメノタルヤニ政点シテ此

メノ下 十廿左雨臍八ノ里右雨

注 あまのあや 晴テ△臍未考枝本飛鳥

井家本作齊一ハ 十六廿一

而止也晴可用義心セリ あまのよ 西夜

あまのよ 四十八左雨ツクニ雨モフラス一キ  
立右ノ小留君カ同次ニ西モフラス又

カツコヨシニセム

一ツクシム意ナリ あまのよ 四十八左雨障  
常ニ為公ハノ

四十一 六面右同止七右雨隠ニ云  
右同 あまのよ 山ハハ四十五廿八左

あまのよ 八十四左日廿七右雨間不  
置十ヲ四十一左同十廿右

雨間雨而國 あまのよ 十廿左之雨露ノ  
見モ將為ヲ 十ヲ十二左雨露相△

發明記水露相ヲ云 三廿  
キラヒトヨムヲ例トス あまのよ 三左



久方乃天之探女乃右船ノ泊之 高津ハ一神代

卷下云時天探女 此云阿麻 和名鈔曰 安乃乃

ノ字濁清異也七ツハ依日本記可濁也 此神ハ天

雅彦ニツキトシ也 委イノ多下 恐ク下照ナレヘシ

此歌ヨシレハ天探女カ船ハテシトハ鏡坐ナルヘシ 神名

帳東生ニ比賣許曾社 或号下照 比賣乃日式神名ニテ同又

ニツラニヤ 亦神代记下ニ天雅彦聚下下照姫因

留注云々時天探女見而謂天雅彦曰云々コト

三ニ出テ又探女ノ名不見下照姫ヲコ、ニテカク云

三ニ出テ又探女ノ名不見下照姫ヲコ、ニテカク云

あゝ 三ノ五十一右牛留鳥ノナツサイ来トアミト云  
鳥ハセナカク口クツカヒツシテアリクユエカク

ツノク 袖中抄ニミナク、ルアミノハカヒノカイモヤリノ  
ハラ雲ニ若ノヨソニニルカナアニ凡大アニトモ云鳥ナリ

あゝ 三十三左天子月ヲ網ニサレナセ  
ノナニ右 ホ、キス アミサ、ハ同左 ホト

ス鳴トヒ トツク アミサニシヲ同 四十七右アミサレテアガツ

夕カ十九ノ十九右網取ル獲テツツケナ ホト、キス

サレハ今張ト云ニカヨフニヤ菅乃春霞アミニハリコ

メ花子ヲハウツロヒ又ヘキ 菅トメム 源氏花ニアス



サス勢神 オホウ勢 **あらめ** 上ノ十六竹垣編目ニモナリノ  
モ右タニコモ皇編ハ

ノ下め **あじきつぎ** 雄略紀ニ阿武柯杵都  
杵都 此都 此都 此都 **此搔者**

ナリ 和名欽説文云 **蠶** 莫衡及与七 **和名阿史**  
日字亦作 **蠶** 蠶久飛虫也 **ムトフト五音通ス**

**あめとつらつらあめとつらつら** 三ノ四  
十六

**あめをまとのと** 兩行如十四世三左アツ  
三ノノ多虫十八世ニ

**あめのあつと** 十三ノ七右メニタニ相跡  
所見社天之足夜干同左

或本勢一相所見欲一ル〇テ世三右大王御壽ハ  
長久天足有▲如点スヘキ勢オテ奇聖躬不豫  
ノ時太旨ノ御勢ナレハ天皇ノ御命ノ天地ト共ニ  
長久ニ満足メオハシテセト云フヲナカリテタレリト  
ヨシ玉ヘリトシテセテ文字ヲカケリトニモバゴモ  
アメノタルヨニトヨシテ長夜ヲ子ゴウヨリ矢ノ字ヲ  
上ニソヘテヨメリ 天長共イヘバオナ左又ハタノ夜  
ヲナカモカモ吾化日子カ夢ニユメニシシエカエルラニ



此歌ノコトキヲノソミ子ユフ  
心ヨリヨムナルヘシ

あめ

十八ノ十七右  
アメヒトシ

續日本記十九天人波  
天人ナリオナニ村久堅之  
玉都ヲ置テ草摺トヨメルコトク  
天子ノミレニス  
所ニスム坂上臣女ナレハ  
天女ニイ、ナセリカレヨリ  
ツ子人ノコウトイフヨリ  
ハアヒリニテトアルヲウケテ  
ツ子ナラヌ又天女ノカク  
コレラルハトヨイリ

あめはま

六ノ廿八右

あめのあけあめを

一ノ廿四右  
天ノ御蔭

あめを

一ノ廿四右天地マ日ノ御蔭  
三ノ五十八右吾王天ノ所知ムト

あめのうらと

廿ノ五十四左  
一通例ハ天智天皇  
之天命岡別天皇トモ申ハニ

コハ天武帝也六帖ニハ  
聖武帝ノ哥ヲアソノ  
エカトノイヘリ天皇ト申奉ル故  
天子ヲスヘテ云歟  
古今ニハイ又カヒノ  
トコノ山ナルノ左注ニ云リ

あめのう

三ノ廿六右  
天ノ宮

あめを

十ノ四十八右  
天海廿ノ三右

あめを



古事 雄略 卷八 八モトツエハ 阿ハ 亦 衰 於  
盤 理 一 負 矢 十 日 天

あめのりこ  
五ノ世右五ヲ以  
幾日ニ准ラフ  
あめゆち

テ七左 天地之依相之極 六ノ四十三右一 依會限  
十ノ四十一左 天地之別時 八ノ世ニテ 七十七ノ世五左  
世ニ左 乾坤ノハメノ世ニ 三十三ノ世ニテ 七ヲコヒノ  
カクシ 九ヨリ アヒトウレ 七左ノ一トイフ 名ヲタテ

あめのとちまらう  
六ノ十五  
あめ

のいあをさか  
世四ノ世ニ左ニ 七世三右 天  
地之弥遠 長久ニ 三ノ五十九

右ノ一ト一ニキツ、同五  
玄黄之一 世四右  
あめともいあ

つむぎ  
ニ世九右 天地ノ共ニ 將終ト  
十九ノ四十四左ノ一 アイサカユム  
あめとも

さひあつり  
十七ノ九左 枯仁 徳記 舍人 哥ニハヤ  
フサハ アメニ 十ヲ 十六右 五左 六ノ十

九右 乾地  
神ヲ子  
あめの神祇をそむき子



河地のふらふらとも

土ノ右天地ノ通雖  
光十九之四十四左

あまのさかしくあう

ラ五十六  
左

あま

はらふらふらと

五十九左  
扶可考

あまのさか

たふらふ

土ノ右八十六世右十九ノ四十四左  
たておまひむらじ記をこし子又ラし

鬼ヤレドモ  
行方モ無

あまのいさくらも

十五世左道ノ  
十カラヲクリタ

夕子ヤキお口おサムー左傳曰凡火人火曰火天

火曰火 史記孝景本紀曰三年正月乙巳天火

燔ニ雒陽東宮大殿城室の列異

あめり

傳云費長房能縮地胆

三十六左天降竹天ノ芳来山同十七右一就神

ノ香山二世四右安田利座而行宮ニ 十三三左

天降座ケム五百一カ千万神ノ十九ノ世九右アモリ

ニレ掃平ケ廿五右夕カ子ホノ夕ケニアモリシ

スメロキノカニシヨリ アメフリツクナリ天ク

タリツタト云心糸布切年十レト聞ノヨロシカラ



子ハ三五ヲ通シテアモリトハイ(リ)ツクハソ(テ)云  
詞ナリ此及ヲニタスモルモクタル儀ナリ  
万三千七都降ツク倭ノ隱山  
古史南方ノ豫ノ天山

あやに 神代皇后記 古 阿柳耳ウタノミキ  
古事記上ニ河夜ルナリニキコシ同

雄畧記ハ阿夜ルカニコシニテ五左ノ哀  
同正六右文ニ五キ十九ノ世九左ノ貴サハ吐嗟

日本記 アヤに 吐嗟物イノ儀也 伊物ニ ヤトナト  
アヤトイケレト 古語格送ニ 文布 同韻花

三ノ世ノ四ナ左六アヤニカモ子ニ アヤニキニテ恋ヒ  
カナシム意ナリ 十四世

五左 アヤラクサキテコリノ是ハメタルナリ  
念此ノ意ナリ子モコロニト云ニ通メツク 共ニ業ルニ切ノ

儀ニヤ 發徳辞嗟歎辞ノニ義アルハ此集ハ  
嗟歎カタナリソレニトリテニコトニウレハアリテナ

ケクモツホムル心ノキハテルトキ 稀嘆僂嘆ナトイフ  
ニカナフコトアリ今此アヤハカ ホムルコトハナリ 憐

一畏一之ニ一也 あやぢう 西ノ世ニ右アレ  
一貴ナト考ヘシ ヤハカトナリ

彼哉者物同六アヤハトモ  
同彼哉者物トモナリ あやぢう



ナラ十六左後席 古事記上四阿夜加波十六千八  
一夜之文垣也後席ニ同サテクニ彩タルヲ云  
物ニアヤスケカサアヤ井カサノ歎  
クニカキアムタムシロノルイナルヘシ

志良 十五千二  
あやめんとよき志良

ナラ十六左後席 古事記上四阿夜加波十六千八  
是時傳人<sup>新羅</sup>等ハ今在東原佐摩高宮忍海  
凡四邑漢人等之始祖也 夜神記廿七年高  
麗王乃副ニ久礼波久礼志之人也尋尋者由此得

ナラ十三右末五  
四十左四

フサ又ル月日ナトニモ置ニヤ  
松原神切記ニ  
右事 志良記  
志良

尔宇都夜阿良礼能多志クニ 一廿六左霞  
ナラレ松原ニテ廿九右霞 零キニモガタニ<sup>己モ</sup>  
<sup>レト音通</sup>メシケリ 七十五左霞 零カレノ崎同正八左ノト  
ホウアフレ音トツケリ 歎止ノ止七志ハ同一カニ加  
ナノ五十九右我袖也 電々走ニホハウツガゴトクニ  
アラレノ降音ノスレハヨメリノキニモカレニモタレ  
ルモ共ニアラレニヨリ縁言ナリ 和名 敏云 陸同ニ  
電ハ雨氷也 神角及 和名 阿良礼



あゝあゝ

二廿四左去鳥乃相競ハシト  
トアツク  
一云キ蟬  
ハシ十九十五右有争ハシニ廿六左ウツ

セモノ名ヲ競争ト鳥ノアツクト  
云ツキハハハ下注ウツセモハ世ナリ

あゝ

あゝ

六ノ七

あゝ

六ノ廿六左  
十九ノ廿六

あゝ

あゝ

廿ノ廿六  
左ニ

あゝ

神功  
皇后

紀布阿邏々摩菟磨邏ハコレハ宇治河ノ吐  
ノ地ノ名ナルベシ未詳

あゝ

三十三廿四一廿一ノ道  
十三ノ廿三左

あゝ

あゝ

廿ノ五十四左佐保子ヲハ  
二四十四左荒有カ三ノ五十九右

令荒  
為也

あゝ

十一ノ五左  
十五ノ廿三

あゝ

あゝ

十一ノ四十八右  
アサト見十六ノ廿九

あゝ

廿五左 荒振公ヲ十一ノ四十六七ノ  
荒備勿行廿九同 十四廿二左 十一廿六左 イタフル心



同歟 ▲フリキリテヨセ又心ナリ 日本記ニ荒俗  
荒神共ニアラフルト点ス ▲フルハふノ下

あゝふも

ナラセホ左  
直等荒木

あゝし

ナラセ四左  
冬ノ抄ニ飄

カモセナセカカ 土世右左下凡吹ナテナセ右荒風  
同左向良下ノ吹 ハノ季ハ冬風 ▲孫細云定瓦  
山下出風也 盧會及ノ子五百番 通具即吹凡モ  
アラシトイフヲ定家ハ判ニ凡ノアラシトナルヤウヨシ  
サ侍ラス 云云 六帖ニワレヲ君トフヤクトツル今  
ハアラシトナルソカナシキ此奇ナクトモヨムヘシセナセ

あゝ吹ハ

ナラ四十五左ニハ右恋尔不有者也  
字ノコトクミテハカナハスコヒテモコト

カヒナリハ意ナリサテフヒツクアラシ

スハナリ未詳ナラセモ恋ワアラシハ

あゝ吹

四十五左不有ハ同四十九左 四十九

あり

有去テ ナラセ五右 ナセノ十六右

ナラセ五右一かよひ 古事記上ニ所理加用盛勢  
當集甚多詞ナリ有通也上ニアリ夕ニトアル在立  
也方ニ蟻通トカケルハ假リテ書ルナリ 蟻ハ月道ヲ  
往来ヨクスルモノナレハ似タレ 詞ノ後ノ異説ニモアル



ベキ歎 け有ト云 詞ツキ甚多シロテ士有勝  
モロ四ノ世ニ左ノナノ左ノテ十五左有ニセ又カモロノ世  
三正在立 文選ニ蟻回アリノコトクニツルトヨ  
往來相逢テ何ヤラム物ト色代ナドスルマウ十六  
劉禹錫詩塔蟻 あり 十六十九右  
相逢如何語 あり 十四十二左

イツニテモアルイリマコナノサメテ  
ナノ四十六左 あり 五ノ世九  
アリノコトクニ六ノ四十五左在カホレテ三ノ世ニ右  
有雙 スレト エソコトモノ四十四右アリタモホリセ十九左

世七左ハ并ニアリメクリ  
〇一待四ノ四ニセテ七右九ノ八 あり 雄略記  
鳴能守陪能ニ在尾之上也在根良對馬乃渡 三阿理  
云云此在根ト云ト今ノアリヲト云同意ナルハシ

古事記ニハ宇 あり 二ノ世八右宮柱太布  
倍能ノ云字ナシ あり 坐御在香十高知  
坐而△神代卷上投入殿内一古語拾遺云 あり

古語正殿謂ニ之條香  
了 テナハ左荒磯口カナ左在衣邊 十三世五  
左一四十四ノ世ニ左アリソヤニ十七世五左加



アライソナラ又證ナリ  
ナシ五〇セノナセ

あつて

ナニ社左  
▲アリク

テモアリサリテモ也アリサリテモ也アリ  
アリ  
モ心タテサカナリヤナノコノ口遠キハ

あつても

十四五左 三九左  
在明白日

あつ

あつても

丁在六右在根良對馬乃渡  
▲已ニ出セル雄畧記ノアリ

ヲノトアルニ同シカルヘシアラモ子ト云コト  
ハルヘシカ  
ツシメノ根ハ神ナドモオハシマシサガシソビ  
エナドモシ

タレハアラ子ト云心ニラアリ子ト云  
飲ロアリヲモサ  
ガシキ山ノ尾トキコユレハ准シテカク  
ハイフナリ  
ロツ  
こハ三韓ニワタル時ノ津ナレハ國史ニ  
津島トカ  
ケル所アリ。思梅高キ山嶺ナドアルガ  
海ナカニアル  
國島ナドハタノモシクヨカルヘケレハ  
カリハツビクルナ  
ルヘシイテタナノヨロシキ山亦山川ヲ  
褒ルハ子ナ  
リ青丹若玉モヨキアサモヨイナド云  
心ニカケテツク  
クルニアノ西岑ノ異祢日本傳ニ東國  
通鑑七  
唐顯慶五年九月唐分百濟故地熊津馬  
韓東明金連德安五葉云對馬ハ馬韓



對ニタル故ニ名ツクナリタニ  
津島ノ字ノ倭コヨリナク

あうてお

ハア  
ナ四十五古今水無川  
ハアリテモナリ

あうら

ケル舟ヲ  
ナ五ノ六アリ

あうあとも

十六ノ世四  
雖行往

あう

あんや  
ナ七ノ世

あうらるあうアヤ

十五  
七右

あうてのら

四ノ五十五十五ノ世三  
十の四十三左

あうの月杖

十の四十五ノ世七左  
十一ノ世九左

あう

さうて

四ノ五十一のナニ正五ナセナハ右アリクニテ  
モナリアリツクモニ日歟右ニ出シヨハニ糸ノニ

あうさぬ

古事記雄阿理岐技能美幣能古  
賀。十四正三右アリキヌノサエクニツニ

四ノ五右ニハ珠衣ノササリクニ十五ノ世三右ノアリテノ  
十十六ノ八右蟻衣之宝之子等カニ珠衣ト云ニカハ宝  
ノ子等トツクケタルヲ思フニヨキ衣ノ名ト云ルアリ  
和名集玉篇云歟  
三消反和  
名子蟻日 蠶 初生也コニニ依レハ



蟻衣トカケル此意歟サテ替蟻ノ衣ト云意歟  
空蟬ノ鳴ト云ニハ替リテ是ハ初名ヲ後ニ付ク  
ル歟口欽明紀ニテ母錦ニ足髭髭一領コレハ  
毛席也ト字書彙ニ見エタリレカレハ毛オリノキ  
又歟口吞本記髭玉篇云  
之趣切毛為一席  
又歟口吞本記髭玉篇云  
又歟口吞本記髭玉篇云  
又歟口吞本記髭玉篇云

公カ河流久ニ似人モアヘヤ十四ノ六左アシカラヲ  
子アルキオおもコ十六ノ廿四右雖行往安クモ石  
有十八ノ廿五左アルケト▲コフアリケトモハオシカケ  
ニカケルニヨリニアルケトモ可然也俗語ノヤウナレ

ドモ 古語ナリ  
カイル一ニアリ  
セノ廿五右舟ヲ荒海  
ニ榜虫ノ八ノ廿左

白浪ノ高荒海十五ノ四左大海ヲ  
安流美ニイタレ ▲ラウ及ルナリ  
あらし

七ノ廿一石  
日廿右  
あれ  
五ノ廿九我也。六ノ  
十六キノ十六ワレハ  
あれ

そハ  
土ノ廿五右有廣。叙波云々  
叙ノ上ニ古許  
等ノ字脱スル歟ハ今世アラハタト云カ

コトシ  
ルコト  
あらし  
六左  
あれ



一十六左ヒジリノ御世ユアレ座シ 廿四右一ツゲヤ  
三十七五生来 四十二右継来ハ人多国ニハ満  
廿五左事モ無生来シモノヲ六ノ四十二五アレ座  
御子ノ嗣継四十四左八千年ニアレツキツ、▲神  
代卷上云故天先成而地後定然後神聖生其  
中生荒阿 礼未須 續日本才一云文武天皇詔曰高  
天原事始而遠天皇祖御世中 今ノ至麻氏  
天皇御子之阿礼坐牟弥継々云々

あは

二十左君名者雖有吾名シ惜モ  
十七ノ四十二左四 ▲恪ニ此言勢アリ

あは

カノ十左アラフハヤモナリホシテキス  
ル人アラムヤハト云心ナリヤレヤナ

カフコトハニ  
アラス

あは

十八ノ廿九左アラムヤノ心  
七ノ廿六 ▲有タヲハヤ六

十八鵜ニシモアレヤ  
家鬼ハサラニト云同

あは

廿ノ五十九  
至也通

あは

古事記上ニ河和由岐能ハノ廿左  
沛雪カ十七右五十四左五十五右

五十六右抄可考。後ハ春ノア白雪トヨシナレテ  
春ナラテヨク又ヤウニナレリ 五十七右五十九再



ナノ七左<sup>七</sup> 五十九右ハ 六十右ハ 六十一右<sup>七</sup> 左ハ 十六左

和名集云日本記云沫雲 阿和 申皮 其弱如水沫

△神代卷一 蹴散<sup>コシ</sup>ニキテフル雪ハアハニナフ

リソト有ラ出シテ注セリ其コトハリアラバ此オ

四人沫緒ニ搓テハ 沫緒ニヲカリテ書リ<sup>神</sup>

他卷上<sup>此云</sup>沫蕩尊 阿和各伎 泡沫ノ心泡ハ大メ

包メルヤウナレハ云沫ハ米ノ粉ノコトリナルヲ云ア

ワ雪ハヨハキノ云ニアラスコニカナルニウケテモ云

ヘシ其弱如水沫ハキユヤスキ故ニ水ノアワノ

コトリナレハアワ雪トイフ心ナリ<sup>水ノアワモムス</sup>

フ物ナレハソレニヨセテアワヲニヨリテ造フト云リ

拾遺 十六貫之枕草子 抄 清女納言ハウス水ア

ワニムスヘルヒモナレハトヨメリモニニナムスヒアケキ

ニナト、イフタクヒニ造フヤウ有名ニヤヨロ

ヒノコトカケルニ何原カワスレ待シシヲ陸路造

ニセヨトカキ ニ世云右青旗乃水

テ侍リイカ 旗ノニ 四十六右

青旗乃葛木山 十三世右青幡之忍坂山

是ハカギレル枕詞ニハアラスホシケリ<sup>カツラノヒ</sup>



ノホレルカ青キタヲタテタルヤウニエユラタト  
ヘテヨメルナルヘシ 赤十九ニサ、ゲテモタルホ、ガシハ  
アタカモニルカアヲキ、又ガサ 豊ハタ西雲夕傳  
ナドヨノル作例ナルベシ 月令曰天子居青陽左  
人ノ乘鸞輅駕蒼龍  
載青旂衣青衣

あぢ

九世四左

青衿著

十九世二右青柳ノ細眉根△神女賦眉聯媚  
似蟻揚兮十三十九左青ニ生ル山スカノ子ノ  
ハノ世ニ左青浪世ノ志左切口青雲ニテ世五左夕  
ナヒク、モノノ 十三世九左ノ向依國 十四世八

右十六世九左ノ夕ナヒク日スヲコサメクホフル  
古世五右アシクムノ夕ナヒクヤ△赤十六ノ哥、蒼  
天ノ儀ニテ晴天ニモ高山雲嶺ナレハ小西フル  
トナリ其外ハ雲ト云ヨリ大方ニツキテ夕クビ  
クルハヨメリ 史記伯夷傳云非附青雲之士  
云云漢東方朔傳枕之則在青雲之上抑之  
則在深泉之下口詩黍離篇云悠悠  
蒼天汪漶レ遠而視之蒼々然也

あぢよ

仁德記<sup>十三</sup>阿鳥珥豫辭灘

羅武烈記九十一右青丹



吉奈良曰十六廿九世三右七廿十ノ由共三回十三  
六右綠青吉平山 共三十字 有こと ▲此知十三文字ヲ正  
義ト可見 説々雖多難信用 凡丹トハ赤キ  
ニヨリテ緑青ノ之類也 ムカシ奈良山ヨリヨキ  
緑青ノ出タシハ 玉藻ヨキシ 麻裳ヨイ  
真管ヨキ一ナト云ツケカラニト  
シクツクルナリノ古事記 祓一時天皇。到坐  
木幡村之時麗美孃子遇其道 衛尔天皇  
尚其孃子曰汝者誰子答曰左迹之比布礼能  
意富美之女名官主失阿枝比賣口明日

ヨ者伊都改奉于倭之青垣東山上此者坐  
御諸山上神也 是王臨 山ヲサス 延喜式八出雲國造神  
賀詞云出雲國乃青垣山内少下律右根在宮  
柱大敷之由云云 是出雲 國ヲ云リ イツクニ限ラス詞也  
たをのつ  
所考  
あをの皮のここのゆき 三ノ 廿七右

中四十四△杜子美詩  
水碧鳥逾白  
あをな 古事記 徳元ニ 麻初流河  
袁那十六ノ十七左蔓菁 并 題 ▲和名欽云 藻  
敬本草注云蔓菁 其音 二音 业人名之蔓菁 音上



蛮和名 阿字奈 揚雄方言 陳宋之間 蔓菁曰葍  
對。古事記云時天皇到坐其嬖子之標菘  
處 訖曰一。韻會二江南有菘菜一江世有  
蔓菁相似而異 共二菜ノ名トアリ 日本記世  
廿五  
蔓菁

あなうま

廿五十八左カモノイロノ青  
馬ヲケケルヒトハカギリ

ナレトイフ 古二首為七日侍宴云云 上二正月三日トアリ 二廿右青駒 十三

廿右駘馬 十三廿九左 天武記白馬 和名鈔云

訖文云 駘 音聰 漢悟 故云 駘音馬也 青白 雜毛  
馬也 黄駘馬 葍花毛 馬也

馬也 カモノ羽色ノトハアレトモ 白馬 十リム 黒馬 白

馬ハタイヤウナレバアレゲニヤ 尚尋又ベレト土佐日

記云七日ヨリヌ 又同一 濟一何りけハ白馬ヲ才

モトカヒナシタ、波ノレロキソコ元 正月七日白馬

節會ノ義式并 江次才委 文德實錄四云 仁壽

二年 正月戊辰朔申戌 幸豊樂院以覽青馬

助陽氣也 江次才一裏書曰 御馬本數二十足

禮記曰以青馬七足 飲而用二十一足者三七之義

也 三陽之義 七日義之由見 寬字御記

詩大叔干田芻云 叔干田乘二乘 鶉注 駘白雜

毛曰 鶉今所謂鳥駘也 同 晨凡公篇曰 温有



六駁 一ハ梓榆也  
皮青白如駁

あをあさ

ヤノ糸  
五ノ糸

十八左廿廿三十九廿三十四十八右廿右十五七  
のアヲヤナキハ是十ヲ畧メアヲヤキト云

あをささぬらさ

十九廿四左下タカモ似  
カ青蓋 和名鉄云

瀆漢書輿服志云皇太子

皆未輪青蓋故曰青蓋車

あをささぬらさ

七廿八右青角髪依網原

ミハアハタルニテツラハ  
ツルニ通ス

▲青キ葛ナリヨサエトツハクルハカツラノナカクハ

ヒハロゴリテ調ヲハレルカコトクニナレハカリツハ

ケリ又神代卷伊弉册尊生ニ火産靈一時又

生ニ天吉葛一此云阿摩能身佐圖羅ト云ニ

アラエツラノ角髪ハ鬘ノ義ニテカツラトモヨムハ

ケレハ若ハ天吉葛ノ心ニテ青カツラヨサエトツケ

タルニヤ元ヨリノ訓ノトホリニテモ此義難ナシ

アノヨサツラハ式オハ鎮火祭ノ説詞ニヨルニ鬘ノ

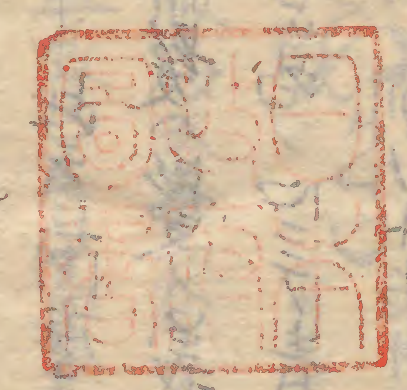
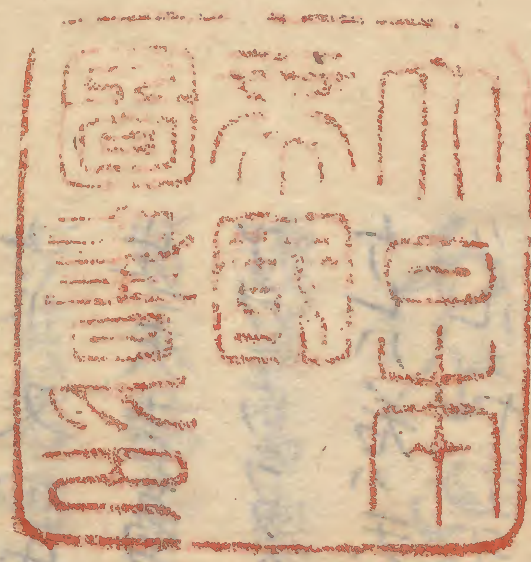
事ナレハシノ角髪トカケレハ總角 和名阿  
々方岐亦四岐

字苑云鬘 音還 和名  
美豆良 又若ナカクハヘルヨゴケノニ

ツラトモ堀川次郎百首女口題ニテヨメリ 水感ナ



ドノ藻ナドモロクスルクサシ網ヲ依スルニ見喻ヘ  
テヨメルニヤ ヨセヤニト云義ニ オ又ヨキ髪ノツヤメケル  
ハ青クニユレバ美ト云心ニツビケル歟 ニ依 青鬢  
縁髪ナト連続アリヤ可考



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '明治' (Meiji).*

明治十一年購求



